

GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 257

2018/05/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

GREEN COLUMN

01. カワシンジュガイを食べる

02. 芸術ってなんだろう…？



今月の一枚



「鮎寿司」

表紙写真・文／町田善康

鮎寿司は、フナを使って作られる「^{なれずし}熟鮎」で、滋賀県の郷土料理として有名です。フナを長期間、米と塩につけ込むため、独特の発酵臭がし、この臭いがあまりに強烈で食べられない人も多いです。しかし長期熟成された鮎ずしは、魚肉に含まれるタンパク質がアミノ酸に分解され、格別な味わいになります。

昨年、博物館講座でフナをテーマにした講座を行った際、雨の日用プログラムで準備した鮎寿司が間もなく完成します。北海道で鮎寿司を作るのは初めての試みで、どんな味になるのか楽しみです。

Event. 今月のイベント

特別展「大美博展」 ～7月1日（日）

ロビー展「お宝見せます」 ～5月15日（火）

無料開館「こどもの日」 5月5日（土）

プチ工房「化石を掘り出そう」 5月9日（水）, 11日（金）

博物館講座（歴史編）「とかち石はどこからきたの？」 5月26日（土）

Information. 参加者募集

無料開館 「こどもの日」

● 5/5 (土) 9:30 - 17:00 かしわ餅の無料配布 (先着 500 名), 昔なつかしいせんべい焼き体験 (15:00 まで), こいのぼり作り (15:00 まで) ● 美幌博物館 ● 無料 (常設展示室も無料でご覧いただけます)

● 美幌博物館 職員 ● 申込み不要

プチ工房 「化石を掘り出そう」

● 5/9 (水), 11 (金) 10:00 - 12:00, 14:00 - 16:00 自由に入室。作品ができたら終了 ● 美幌博物館 1F 講座室

● 材料費 (300 円) ● 町田善康 (美幌博物館) ● 申込み不要。小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要。

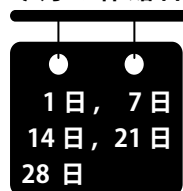
博物館講座（歴史編）「とかち石はどこからきたの？」

【講演会】 ● 5/26 (土) 10:00 - 11:30 ● 博物館 2F 視聴覚室 ● 無料 ● 夏木大吾氏 (東京大学) ● 申込み不要。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要, 定員 50 名で締切。

博物館講座（自然編）「太古の化石トンボを見に行こう」

【観察会】 ● 6/2 (土) 9:30 - 12:00 ● 美幌町古梅 (集合解散は博物館) ● 保険料 (100 円)、汚れても良い服装 (必ず長袖、長ズボンを着用)、タオル、帽子、雨具、虫除け、水筒、昆虫網 (持っている方のみ) ● 鬼丸和幸 (美幌博物館) ● 美幌博物館へ電話申込み (5/2 - 5/30)。キャンセルは 5/30 まで。それ以降は保険料 100 円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校 3 年生以下は保護者の同伴が必要, 定員 25 名で締切。小雨決行。荒天時は、中止となります。

今月の休館日



〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用, 持ち物 ●講師 ●申込み方法

01 GREEN COLUMN グリーンコラム

カワシンジュガイ を食べる

写真・文／町田善康



過日、博物館にカワシンジュガイ属貝類の種類について調べて欲しいと、冷凍標本が持ち込まれました。近年、カワシンジュガイ属には、カワシンジュガイとコガタカワシンジュガイの2種類が知られ、いずれも絶滅のおそれがある生き物です。そのため、種類を見分け、彼らに配慮した保護活動が必要になります。貝を持ち込んだ方も、保護活動に活かすため2種について知りたいとのことでした。

さて、持ち込まれた貝は、冷凍になっていたことから、貝殻は乾燥標本にし、身の一部はアルコールに入れて液浸標本にしました。しかし、手元に大部分の身が残ってしまいました。このまま処分しても良いのですが、なんだかもったいないので、以前、地域の方が「昔はいっぱいいたから、拾って食べたよ」という話を思い出し、せっ

かくなので、味見をしてみることにしました。幸い、既に殻から身が外れているので、しょうゆ味の佃煮が、良さそうです。早速、お湯で煮てみると、泥臭く、生臭い香り。はっきり言って私は苦手な臭いです。3度湯でこぼしても、ほとんど臭いが変わらなかったもので、味付けに入りました。砂糖、酒、醤油を入れコトコトと煮て完成。見た目は、ホッキガイに似ていておいしそうでしたが、独特の臭いは、消えておらず、その上、ゴムのような歯ごたえで、おいしくありませんでした。

美幌町内のアイヌ期の遺跡からはカワシンジュガイ属の貝殻が見つっています。飽食となった今でこそ、食べることはありませんが、かつては貴重なタンパク源になっていたことがうかがえます。もちろん、現在は、絶滅のおそれがある生き物ですから、むやみに食べる必要もないと思います。

02 GREEN COLUMN グリーンコラム

芸術って なんだろう…？

写真・文／久保田結衣



4月より美術担当学芸員として就任いたしました久保田です。引越しから早1ヶ月、美幌の暮らしで驚いているのがキツネやワシの仲間を日常的に目に見ることでした。また、本州では桜が舞う4月でも雪が残っていることに驚いておりますが、「今年は暖かい方だよ」という声も…北海道での生活、何もかもが新鮮です。

休日に公園を歩いていると、木のうろにお家を発見しました。ウォーキングをしていた方曰く、家主はエゾリスとのこと。残念ながらご本人(?)には会えなかったのですが、越冬するための知恵をうかがわせてくれました。北海道は四季折々色んな姿を見せてくれますね。大自然が織りなす美しさもあれば、時に残酷さも感じさせます。よく芸術鑑賞はわからないという意見を耳にしますが、難しいものではないと私は思います。一般に芸術≒美術=美

しさを表現するもの・こと、という解釈がされていますが、文化啓蒙期に当たる明治時代では、音楽や文学も「美術」と呼ばれていたそうです。現代では美術は絵画・立体、芸術は音楽や映像または自然美…といった差別化がされているように感じますが、「芸術」と「美術」の違いは曖昧で同じ意味をもつ言葉なのかもしれません。また文字通り「美しさ」に重きを置いているようにも感じますが、美術・芸術の真価は作品の分野問わず「何か心が動かされるもの」と私は認識しています。

鑑賞は感じ方や解釈は自由に抱いていいものだと思います。また身近なものがひとり一人にとって唯一無二の芸術と言えるのでは、とも考えます。皆様もこの景色が好き、この音色がいい、これはちょっと不気味…などぜひ色んなものに目を向けてみて下さい！新たな芸術と発見に出会えるかも…？

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実・八重柏誠

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/bunya/>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき

.....



休日に湖巡りをしています。この間は阿寒に行ったのですが、とにかくマリモ推しのすごさに圧倒されました…。道が開通したとのことで、近くのオンネトーや双湖台も行きたいなあ、とワクワクしながら計画を立てています。(久保田)